

#### 4) 女性のキャリアロールモデルへのインタビューについて (③)

キャリアとは？キャリアの定義をしたほうが良いのでは？ (安田委員)

成功した管理職のみ？

開業医でも、勤務医でもキャリアはある。

同じ職場での継続だけがキャリアではない。

一度その診療科を離れたり、非常勤になっても、その後また復帰しキャリアを積む人もいる。

キャリアロールモデルについて、議論をおこなった。

開業医は絞り込みが大変である。キャリアロールモデルとして、意思決定権を持つ立場の女性とする。(河野さん)

医師の場合、どのような医師でも治療の決定権があるので、むずかしいのでは？

医局運営や病院についての方針決定に意思が反映できる立場にいる？

- ・勤務医として継続している。
- ・年齢：卒後 20 年以降くらいを目安にする。

→企業は 20 年たっても役職がない人は問題：河野さんより)

↓

「20 年以上のキャリアのある常勤の勤務医で、子どものいる女性医師」とし、途中でいろいろな経緯があった人もいるのが良い。

インタビュー内容

- ・キャリアを続けることの問題点
- ・一番大変だったことは？
- ・それを乗り越えた方法とは？
- ・今後必要な施策、病院（管理職）への提言、後輩女性医師への提言など

どうやって抽出するか？

- ・日産婦学会の代議員の女性医師から一部抽出できる。
- ・大学の産婦人科に聞く
- ・医会の女性医師支援サイトのメーリングリストで聞いてみる。
- ・各大学に男女共同参画関連部門があるが、実際に機能していない部分が多いのでここに聞くのはあまり有効ではない。

現在挙がっている候補

大川玲子医師（千葉）、大屋敦子医師、木戸道子医師、桑江千鶴子医師（都立府中部長）、原澄子先生、大鷹医師（都立豊島部長）、北出真理医師（順天堂准教授）、藤井美穂医師（カレス札幌時計台記念病院センター長 56 年卒）、岸郁子医師（済生会中央病院部長 平成 3

年卒)、内田聡子医師(九州大学助教)、原孝子医師(名古屋通信病院院長 昭和45年卒)、宮城悦子医師(横浜市大准教授)、奥田美加医師(横浜市大准教授)、安達知子医師、雨宮照子(至誠会第2病院部長)、東館紀子(女子医大成人医学センター准講師 53年卒)、川名有紀子(愛育病院)、望月善子(獨協医大外来医長平成3年卒)。

予備調査表たたき台について(資料7)

絞り込んだ施設におくる予備調査なので、前半2-3の部分は必要ないのではないかと、また、医会のデータにあるので、それを一部使う。

回答の項目の、「なし」の部分は、予備調査なので理由の記入はやめる。ヒアリング調査で聞く。

河野さん:調査に利用するような女性のキャリアデザインの年表を作成するとよいのでは。キャリアネットワーク作成のものを参考にする。

## 6. 今後のスケジュール

予備調査票の完成

インタビュー内容のたたき案3種類

一院長・診療科長用、子育て中の女性医師用、キャリアモデル用を10月末までに作成。安田委員にお願いする。

予備調査の依頼、インタビューの依頼文章(安達座長作成予定)

インタビューを11-12月に終了して、次回の班会議は平成23年1月12日もしくは26日の予定

## 有効な女性医師就労継続支援策についての予備調査 ご協力をお願い

平成 22 年 10 月 18 日

平成 22 年度厚生労働科学研究費補助金  
(地域医療基盤開発推進研究事業)

「女性医師離職防止のための勤務支援好事例の収集と検討」

研究代表者 母子愛育会愛育病院産婦人科 安達知子

拝啓 晩秋の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、日本の医療、とくに周産期医療をめぐる、種々の問題がおきております。特に医師不足に関しては、地域偏在、施設間格差などのほか、増加している女性医師が妊娠・出産をきっかけに継続的に仕事を続けられないことも大きな要因となっております。

平成 20 年度の厚生労働科学研究費補助金にて、医師不足が深刻でかつ短期間に女性医師が急増している産婦人科を中心に、「女性医師就労支援事例の収集・検討」を行い、この研究の成果物として「妊娠・出産・育児中の女性医師が働きやすい職場づくり一周りのスタッフもいきいきと働きやすく」というパンフレットを作成し、好評を得ました。

今回の研究では、前回調査の出産直後の女性医師支援というよりは、小学校就学以降の子育てをされている女性医師の支援や女性管理職の育成などを念頭においた研究を考えております。また、この研究を通して、女性医師のみならず、働く医師のより適切な人事評価の仕組みなどについても、検討したいと思っております。そのため、病院の管理者（院長）や上司（科長）、ならびに学童期以降の子育て中の女性医師にヒアリング調査をさせていただきたく、ご協力をお願い申し上げます。

すでに、貴院は、女性医師継続就業支援に対し積極的に取り組んでいらっしゃる医療機関として、選定されております。つきましては、まことに不躰なお願いであり、大変ご多忙のところお手数をおかけいたしますが、ヒアリング調査をさせていただく前に、予備調査をお願いいたしたく、以下の内容についてご記入くださいますよう、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

なお、本調査は全国の分娩を取り扱っている病院のうち、よりよい支援体制を持たれている約 10 施設に行く予定でおります。

ご回答は、ファックスにて、11 月 1 日（月）までにご返送いただきますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

敬具

## 追 伸

本予備調査終了後、11月から1月初旬にかけて、ヒアリング調査【貴院に調査員（医師）が訪問して病院担当者、院長あるいは診療科長、ならびに女性医師本人（できるかぎり産婦人科、産婦人科での実績がない場合は小児科、外科）に質問する形式、所要時間約30分】を予定しております。ご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

連絡先 〒106-8580  
東京都港区南麻布 5-6-8  
母子愛育会愛育病院産婦人科  
TEL 03-3473-8321

安達 知子 [tadachi@aiiku.net](mailto:tadachi@aiiku.net)  
山崎 亜子 [ayama@aiiku.net](mailto:ayama@aiiku.net)  
(事務担当)

**FAX No. 03-3473-8376 母子愛育会愛育病院 安達知子（直通）**

このページをそのままごFAXにてお送りください

アンケートの□には、あてはまるものに☑を付してください。（ ）は自由記載をお願いします。

貴病院名（ ）

1. 貴院における医師就業支援策についてお聞きします。

A) 貴院では学童期（小学校入学）以降のお子さんや介護の必要な両親等を抱える医師への就業支援策を実施していますか？

行っている→内容は？（ ）

特に実施していない

B) 貴院には、学童期（小学校入学）以降のお子さんや、介護の必要な両親等を抱えて勤務されている女性医師がおられますか。

いる→人数、所属科等は？（ ）

いない

2. 貴院に所属する女性医師およびその施策等についてお聞きします。

A) 貴院には管理職クラスの女性医師（医長、科長、部長、附属センター長等）がおられますか。

いる→（ ）名、内訳（例：○●科△名など）

（ ）

いない

B) 貴院では管理職クラスの女性医師を増やすような施策を実施されていますか。

実施している→具体的内容は？（ ）

実施していない

C) 貴院に所属する女性医師で、子育て、介護等と仕事を両立させている（きた）管理職クラスの方をロールモデルとしてご紹介いただけないでしょうか（できれば、産婦人科、小児科、外科等の女性医師）（ ）科（ ）先生

3. 貴院の人事評価システムについてお聞きします。

A) 貴院では医師の人事評価システムを取り入れていますか。

いる→問いB)へ

いない→質問は以上です。

B) いるとお答えの施設にお聞きします。それはどのようなシステムですか。またそのシステムでは育児・介護等で勤務緩和を受けている女性医師をどのように評価していますか。

[ ]

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

今後の聞き取り調査へのご協力については、後日ご連絡申し上げますが、女性医師が継続して働くための、大変重要な提言となる調査ですので、是非よろしく願いいたします。

ご担当者お名前（ ）

役職（ ）

ご連絡先メールアドレス（ ）

平成 22 年 12 月 1 日

〇〇病院  
〇〇様厚生労働科学研究費補助金  
研究代表者 安達 知子  
(母子愛育会愛育病院 産婦人科部長)厚労科研「女性医師離職防止のための勤務支援好事例の収集と検討」  
の予備調査ご協力の御礼、ならびにヒアリング調査のお願い

拝啓

初冬の候、貴殿におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、先日はご多忙の中、予備調査にご協力いただきまして、心から御礼申し上げます。

早速でございますが、先にご案内しましたように、貴院におけるヒアリング調査につきまして、ご連絡を差し上げる次第です。

誠に勝手なお願いで恐縮ですが、ヒアリング調査の効率化のために、下記のような手順を考えておりますので、ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## 記

## ヒアリング調査について

1. 研究名 :平成22年度厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)  
「女性医師離職防止のための勤務支援好事例の収集と検討」  
研究代表者 母子愛育会愛育病院 産婦人科部長 安達知子
2. 日程 :平成〇〇年〇〇月〇〇日〇〇時
3. 対象者 : ①病院管理者の方(院長または事務長)  
②学童期あるいは思春期の子育て中の常勤の女性医師 1-2 名で、できれば産婦人科、小児科、外科の診療科の医師をお願いします。
4. 所要時間 :お1人 40-60 分程度 (個別のヒアリング調査になります)
5. 調査員 :本研究班の研究代表者 母子愛育会愛育病院 安達知子

6. 事前資料 : “ヒアリング調査資料”を郵送いたします。ヒアリング調査時までには、ご記入のほど宜しくお願い致します。ヒアリング調査時に、調査員が資料を回収いたしますので、調査員用にコピーを1部ご用意くださいますよう、お願い致します。調査員は、そのデータを元にヒアリング調査を行います。病院名は協力調査病院として名前を出させていただきますが、個々のヒアリング内容については、個人名、病院施設名もあわせて匿名化し、同定できないように報告書を作成する予定でございます。
7. 会場 : 貴院へ調査員がお伺い致します。ヒアリング調査の際に使わせていただけるスペースをご提供頂けると幸いです(医局内などでも構いません)。
8. その他 : ヒアリング調査にご協力いただいた方へ、些少ながら謝礼(図書カード)をお渡し致します。

以上、真に煩雑なお願いで恐縮ですが、重ねてよろしくお願い申し上げます。

本研究調査が、よりよい医療システムの構築や女性医師の支援に役立つことを祈念しております。

末筆ながら、貴病院の益々のご発展を心よりお祈りしております。

ありがとうございました。

連絡先 〒106-8580  
東京都港区南麻布 5-6-8  
母子愛育会愛育病院産婦人科 安達 知子  
(事務 山崎 亜子)  
TEL 03-3473-8321 (PHS602)  
tadachi@aiku.net

女性医師活躍推進を支援している病院に対する調査用紙【病院担当者様用】

この調査用紙は後日聞き取り調査の際に利用させていただきます。ヒアリング時には、調査員用にコピーを1部ご用意いただきますようお願い申し上げます。特に※のついた項目は聞き取り調査の際にも質問させていただきますので、わかる範囲でご回答下さいますよう、お願い申し上げます。

1 病院の概要

病院名・住所					
病院所在二次医療圏					
病院の設置母体(当てはまるものを○で囲んで下さい)		大学病院、国立、国立病院機構、都道府県立、市町村公立、厚生連、済生会、日本赤十字社、社会保険、私立、その他( )			
※	病床数	一般	療養	その他	産婦人科病床
※	医師数	常勤	うち女性医師	非常勤	うち女性医師
	産婦人科				
※	病院全体の 一日平均入院患者数	人	産婦人科では	人	
	病院全体の 一日平均外来患者数	人	産婦人科では	人	
	病院全体の 平均在院日数	日	産婦人科では	日	
	病院全体の救急件数	件/年	産婦人科では	件	
支援を受けていない一般の医師について	当直回数	約	回/月/1人当り	産婦人科では	約 回/月/1人当り
	宅直(当直医がいない自宅待機)回数	約	回/月/1人当り	産婦人科では	約 回/月/1人当り
	祝祭日の日直回数	約	回/月/1人当り	産婦人科では	約 回/月/1人当り
	セカンドコール回数	約	回/月/1人当り	産婦人科では	約 回/月/1人当り
2009年分娩数 (概数で結構です)		総数	件、帝切	件、母体搬送	件
標榜診療科 (当てはまるものをすべてOして下さい)		内科、心療内科、精神科、神経科、神経内科、呼吸器科、消化器科、胃腸科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚泌尿器科、皮膚科、泌尿器科、性病科、こう門科、産婦人科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科			
女性医師就業継続支援に関する事務部署 (あれば)					

※	常勤	非常勤等	診療科別内訳	
	女性医師就業支援の取り組みを現在利用している女性医師数			

2 女性医師の活躍推進状況について

※ 1～17についてはあてはまるものを選んでください。あてはまらないと思う時にはその他に記載してください

1	所属医師の構成状況について、診療科別、年齢別、男女別の構成を把握していますか。	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他	
2	医師の募集方法やその効果、応募状況などを把握していますか？	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他	
3	個々の医師の知識、技能、資格(専門医取得状況等も含む)、適性などを把握していますか？(人事台帳の有無)	定期的に把握・更新	必要に応じて把握	把握していない	その他	
4	個々の医師の進路希望や、資格取得希望状況を把握していますか？	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他	
5	上司と部下が、進路や資格取得の希望状況を共有するような面談を実施していますか？	定期的に実施	必要に応じて実施	実施していない	その他	
6	女性医師の活躍状況について具体的事例を把握していますか？	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他	
7	管理者は女性医師を積極的に登用、活躍推進するという方針を示すまたは計画をたてていますか。	計画をたてている	方針は示している	考えてはいるが、示していない	その他	
8	個々の医師の家庭状況(育児・介護の負担状況等)について把握していますか？	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他	
9	医師の男女別、年齢別、職場別の退職状況・理由を把握していますか？	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他	
10	医師が仕事と家庭を両立し、就業継続することを支援する具体的(研修会の実施、メンター制の導入等)方針または計画がありますか。	具体的取り組みを実施している	具体的取り組みの計画中有る	支援する方針は明示しているが、具体的計画はまだない	支援する方針の明示はまだない	その他

11	女性研修医、女子医学生等が進みたいと考える診療科、働きたいと思う病院を把握していますか。	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他
12	女性医師の配置が少ない診療科と、その要因を把握していますか。	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他
13	管理者はあらゆる診療科に女性医師を配置していく方針を示す又は計画をたてていますか？	具体的な計画を明示している	方針は示している	特にそのような方針は打ち出していない	その他
14	各診療科医師が管理職クラス(科長、部長等)になるにあたり、必要もしくは取得が望ましい資格等(学会認定施設要件、指導医資格、その他専門研修歴)を全科にわたり把握していますか？	定期的に把握し、明示している	管理職クラスの交代時に検討し、採用時に考慮している	特に把握していない	その他
15	各診療科医師の資格取得(専門医、指導医等)を援助するような取り組みを実施していますか？	病院として全科で実施している	一部の診療科のみで行っている	実施していない	その他
16	院内慣行として、医師だけでなく他職種も含め男女の固定的役割分担(セクシャルハラスメント等も含め)が存在するかどうか、実態の把握を行っていますか？	アンケート等で定期的に把握	問題が起こった時に把握したことがある	特に把握していない	その他
17	女性医師の活躍を推進することに対する、男女医師、他職種の意識や要望を、院内調査や面接等により把握していますか？	定期的に把握	必要に応じて把握	把握していない	その他

3 貴院院長が適切と考える常勤女性医師の全医師に占める割合を、教えてください。(AからEの記号でお答えください。)

	10年までの医師		10年以上管理職クラスの医師	
	女性医師の割合	子育て中の女性医師の割合	女性医師の割合	子育て中の女性医師の割合
病院全体				
産婦人科				

☆貴院院長からご回答お願いいたします。

A:1/5以下、 B:1/5~1/3、 C:1/3~1/2、 D:1/2~2/3、 E:2/3以上



7 1) 女性医師に対する取り組みで効果があったと考えられるものに番号(効果の高いものから順に)をつけてください(該当がなければ空欄にしてください)。

- ( ) 女性医師の能力発揮による病院運営の効率化が図られた
- ( ) 患者ニーズへの的確な対応ができた
- ( ) 病院イメージが向上した
- ( ) 他の医師の業務軽減につながり、職場全体のワークライフバランスが改善した
- ( ) 職場全体のモラルが向上した

※ 2) 女性医師に対する取り組みを始めてから、院内の雰囲気はどのように変わりましたか？

※ 3) 女性医師に対する取り組みを始めてから、院内職員(女性医師も含めて)に対し、どのような効果がありましたか。

※ 4) 女性医師に対する取り組みを始めてから、対外的にどのような効果(地域や患者に対する広報的効果、募集・採用に関する効果等)がありましたか？

8 女性医師の活躍推進や男女ともにワークライフバランスを考慮した働きやすい職場環境も含め、今後院内でさらに推進を予定している計画や方向性についてご教示ください。

ご協力ありがとうございました。

## 就学後児童を育児する女性医師に対する調査用紙【女性医師用】

この調査用紙は後日聞き取り調査の際に利用させていただきます。ヒアリング時には、調査員用にコピーを1部ご用意いただきますようお願い申し上げます。特に※のついた項目は聞き取り調査の際にも質問させていただきますので、わかる範囲でご回答下さいますよう、お願い申し上げます。

1 女性医師の属性 病院用番号 No.( )

勤務先(病院名)						
年齢		歳				
医学部卒業年度		昭和・平成		年卒		
専門科 (当てはまるものを○で囲んで下さい)		内科、心療内科、精神科、神経科、神経内科、呼吸器科、消化器科、胃腸科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚泌尿器科、皮膚科、泌尿器科、性病科、こう門科、産婦人科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科				
特に専門とする 範囲があれば		【例】周産期、不妊など				
専門医等資格の 取得の有無		有( )・無				
現在の組織上の役職						
現在勤務中の病院の 勤続年数		約	年	卒後常勤とし ての勤続年数	約	
				年 (育児休暇等 は含む)		
※	現在の診療内容		外来	病棟業務	手術(外来小手術は除く)	研究
			日/週	あり(内容 )・なし	件/週	あり・なし
その他の業務		【例】カンファレンス、各種委員会など				
雇用形態		常勤	非常勤	それ以外 ( )		
※	勤務時間		勤務日 (外勤を除く)	勤務時間	平日	
			日/週		: ~ :	
					土曜日	: ~ :
	外勤		あり	日/月	なし	
	当直 (院内で宿直)		あり	日/月	なし	
	休祭日の日直		あり	日/月	なし	
宅直(当直医がいない自宅待機)		あり	日/月	なし		
セカンドコール(当直医は別にいる)		あり	日/月	なし		

お子さんの数	人					
	お子さんそれぞれについて		第1子	第2子	第3子	第4子
		年齢				
		学年				
自宅介護が必要な家族	人					
該当者それぞれについて						
	自分との関係					
	介護の状況					
	主な介護者					
配偶者について	現在	いる( 歳)・		いない		
		同居		している・していない		
	配偶者の職業	医師( 科)、それ以外( )				
	配偶者の勤務形態	常勤	非常勤	それ以外	( )	
配偶者の勤務時間	:	~	:	当直あり	・ なし	
支援者について	(夫を除いて)家事、育児、介護の補助者が いる・いない					
	いる場合	自分と補助者との関係は 両親・親戚・シッター・介護士 その他( )				
	同居の有無	同居している・していない ・ 近所にすんでいる				
	有料の支援サービスについて	サービスを受けている場合(保育所、学童、介護施設入所等を除く)				
		種別	シッター・家事補助・介護ヘルパー・その他( )			
雇用時間		約		時間/月		
費用		約		円/月		
家事育児分担率 (保育所、学童等を除く)	全部で100%となるようにご記入ください。					
	自分	( )%	夫	( )%		
	支援者	( )%	その他	( )%		

※

※	当直、日直、セカンドコール 時等緊急呼び出し対応	それぞれの場合よくしている対処法をご記入ください。
	当直時	
	休祭日の 日直時	
	時間外 呼び出し時	

2 ※ 資格取得および研修状況  
持っている資格(卒後何年目頃とったか、また必要な要件の概略等)

1) 専門学会専門医、指導医等、診療科機能維持に必要なもの

--	--

2) 博士号等、研究職継続に必要なもの

--	--

3) 臨床研修指導医等、病院勤務にあたり必要なもの

--	--

4) 産業医、健診業務等関連資格等、多様な就業形態のために取得したもの

--	--

5) 留学(国内も含む)等専門的な勉強(研修、研究)の経験

--	--

6) その他関連団体(学会等も含む)の役職

--	--

3 ※ 就学後児童を育児しながらの勤務について

1) あなたが今までに利用した(している)女性医師支援策に○をつけ、内容を教えてください。

勤務体制	( )	労働基準法に定められた基準を超えた産休・育休制度
	( )	当直緩和
	( )	短時間正規雇用制度
	( )	ワークシェアリング
	( )	業務内容の変更
	( )	その他
保育体制	( )	院内保育所の利用
	( )	病時・病後時保育の利用
	( )	周辺保育所の斡旋等
	( )	学童期の子弟に関する援助措置
	( )	ベビーシッターの紹介
	( )	保育費用の援助
その他	( )	再就業支援研修
	( )	その他

2) 就学後の育児と仕事との両立で、やりくりしに苦労している等、就業継続にあたり考慮しなければいけないと考えているものに○を、特に優先順位が高いと考えているものには◎をつけてください(複数回答可、該当がない項目は空欄でお願いします)。

- ( ) 学校と職場との距離や授業時間
- ( ) 授業後の保育先
- ( ) 学校行事等への参加
- ( ) おけいこ・塾等への送迎
- ( ) 中学への進学・受験
- ( ) 高校への進学・受験
- ( ) 大学への進学・受験
- ( ) 学校の親同士の付き合い等
- ( ) 学校、学童、また地域の活動
- ( ) 子供の心の問題
- ( ) 夫の就業状況
- ( ) 夫の勤務先、転勤、昇進等
- ( ) 両親の状況(介護等も含む)
- ( ) その他1( )
- ( ) その他2( )



女性医師活躍推進においてロールモデルとなる女性医師に対する調査用紙【女性医師用】

この調査用紙は後日聞き取り調査の際に利用させていただきます。ヒアリング時には、調査員用にコピーを1部ご用意いただきますようお願い申し上げます。特に※のついた項目は聞き取り調査の際にも質問させていただきますので、わかる範囲でご回答下さいますよう、お願い申し上げます。

また、ご自身のご略歴を任意の書式で結構ですので、ご準備いただけますか。アンケート当日別添のようなキャリアチャートを作成させていただくときに参考とさせていただきますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

1 女性医師の属性 病院用番号 No.( )

	勤務先(病院名)					
	年齢	歳				
	医学部卒業年度	昭和・平成		年卒		
	専門科 (当てはまるものを○で囲んで下さい)	内科、心療内科、精神科、神経科、神経内科、呼吸器科、消化器科、胃腸科、循環器科、アレルギー科、リウマチ科、小児科、外科、整形外科、形成外科、美容外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚泌尿器科、皮膚科、泌尿器科、性病科、こう門科、産婦人科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、気管食道科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科				
	特に専門とする 範囲があれば	【例】周産期、不妊など				
	現在の組織上の役職					
※	現在勤務中の病院の 勤続年数	約	年	卒後常勤としての勤続年数	約 年 (育児休暇等は含む)	
※	お子さんの数	人				
	お子さん それぞれについて		第1子	第2子	第3子	第4子
		年齢				
		現在の状況				
※	自宅介護が必要な家族	人				
	該当者それぞれについて					
		自分との関係				
		介護の状況				
		主な介護者				
※	配偶者について	現在	いる( )歳	・	いない	
			同居	している	・	していない
	配偶者の職業	医師( )科、それ以外( )				

支援者について	(夫を除いて)家事、育児、介護の補助者が いる ・ いない いる場合  自分と補助者との関係は 両親・親戚・シッター・介護士 その他( )	
	同居の有無	同居している ・ していない ・ 近所にすんでいる
	有料の 支援サービス について	サービスを利用している場合(保育所、学童、介護施設入所等を除く)
		種別
雇用時間		約 時間/月
	費用	約 円/月
家事育児分担率 (保育所、学童等を除く)	全部で100%となるようにご記入ください。 自分( )%、夫( )%、 支援者( )%、その他( )%、	

※ 2 資格取得状況について  
現在お持ちになっている資格、過去に取得された資格、また専門研修や経歴上有用であった留学経験などについて、以下に分類し記載してください。

- 1 専門学会専門医、指導医等、病院機能維持に必要なもの
- 2 博士号等、研究職継続に必要なもの
- 3 臨床研修指導医等、病院勤務にあたり必要なもの
- 4 産業医、健診業務等関連資格等、就業継続のために取得したもの
- 5 資格ではないが、留学(国内も含む)等専門的な勉強(研修)の経験
- 6 所属学会、団体の役職等
- 7 その他

あてはまる番号	資格等の名称	取得時期、もしくは研修期間(卒後〇年目等)
( )		
( )		
( )		
( )		
( )		
( )		
( )		
( )		
( )		
( )		

